

グローバル人材育成プログラムを終えて

大倉 飛鳥

Asuka OHKURA

物質化学科 3年

1. はじめに

私は、2015年8月17日から2015年8月28日の10日間グローバル人材育成プログラムとして、カリフォルニア州サンノゼにある Spectrum Visions Global.Inc にてインターンシップの参加の機会をいただきました。私が今回のプログラムに参加した理由は、将来教員を目指す自分自身にとって、自らがグローバルな人材になることが、グローバル化が進む社会においてとても大切になってくると考え、今回の経験を通して少しでも自らの生徒にグローバル社会とはどういったものかを教えることができる理想の教員像に近づきたいと考えたからです。

2. 企業理念と事業内容

Spectrum Visions の使命は情報テクノロジーを利用して自閉症や特別な介護が必要な方々の学びやコミュニケーション能力を向上させることです。代表的な製品である、会話支援アプリケーション“Voice4u”は90以上の国で使用され、支援が必要な方々のコミュニケーションの向上を実現させています。

3. 研修内容

今回の研修では大きくわけて2つのことについて体験させていただきました。

- ・教員を目指すものとして、日本の教育のみでなく、他国の教育について理解を深める。
- ・会話支援アプリ“Voice4u”のアプリケーションのテスト施行、チュートリアル編集。

研修中には、大学や高校、小学校、スピーチセラピーなどさまざまな施設の見学をさせていただき



図1 見学させていただいた Lynbrook high school

した。小学校、高校では授業にも参加させていただいて、たくさんの先生に話を聞くことができました。アメリカはさまざまな人種が集まって形成された国であり、母国語が英語でない ESL (English as Second Language) の子どもたちがたくさんいます。現地の学校は日本では考えられない光景が広がっていました。Lynbrook high school (図1) では80%がアジア人で構成されています。Pallone先生の授業では生徒一人ひとりがバインダーを使用し、英語が読めなくてもイラストを使って内容を理解しやすくなっていたり、語句カードが使用されていたり、生徒が理解できるようにさまざまな工夫がなされていました。

一方、会話支援アプリに関する実習では、Voice4u AAC と Voice4u TTS の2つの製品ラインアップのうち、今回は主に Voice4u AAC に携わりました。主なタスクは、(1) 開発中の製品の実機テスト、(2) Voice4u AAC のチュートリアルの編集作業でした。

(1) 実際に自らの iPhone5s および、iPod touch、iPad にリリース前の Voice4u AAC をインストールし、24項目のテストを行いました。このとき初めて使用する人がどういった印象を受けるかの確認も行き、それによって改善すべき点を発見することが

でき、実際の製品開発に貢献することができました。(2)次期リリースの製品内容に合わせて、既存のチュートリアルを再編集を行いました。また、この作業を通じて、初めて Mac OS および関連アプリケーションやオンラインサービスを利用し、ICTリテラシーの向上にもおいても学ぶことができました。

4. 日本との比較

今回の研修で知ったアメリカの教育機関は日本のそれと比較すると、驚かされることばかりでした。一番大きく違いを感じたことは、学習の成果を一人ひとり評価し、その結果を重視することです。例えば、小学校にも卒業試験が存在し、日本では普通に行われている部活動に関しては、アメリカでは勉強である一定の評価を取らないと部活動に参加することが認められないなどの仕組みがあります。また一方で、高校は大学と同じように単位制であり、APと呼ばれる大学レベルの授業も受けることができます。さらにその AP の単位は大学でも引き続き利用することもできます。このように生徒一人ひとりの達成度に応じて教育がなされるので、子どもたちは勉強に真剣に取り組み、子どもたちは教育に関してそれ相応の支援を受けることができます。また、IEP (Individualized Education Program) においても大きな差があります。障がいがあると認定された子どもに対して、個別の教育計画を作成する IEP を記した冊子はアメリカでは何千ページもあるのに対し、日本ではたった6ページしかありません。日本では障がいがある子どもたちのできないところをできるように教育されますが、アメリカでは大きく異なっており、できることをより伸ばす教育がされます。さらに、18歳~22歳ではポストセカンダリーと呼ばれる社会参加のための準備期間が設けられています。そして、伸ばされた資質を使ってどのように社会に対応するかを考えられ、実際社会に対し

て貢献し、社会から必要とされる存在になることができます。

5. おわりに

このプログラムを通して、たくさんの経験をさせていただきました。自分自身がどれだけ世界を知らないでいたのか、自分が理想とする教員像がどれだけ甘いものであるかも知ることができました。それとともに、もし自分自身ももっと勉強してたくさんの知識を身につけ、経験をつめば、日本の教育ももっとよいものにできるのではないかと感じました。アメリカの子どもたちは生まれながらにしてさまざまな人種の人たちと学校生活をともにしています。つまり、アメリカの子どもたちは生まれながらにしてグローバルな人材といえるのではないのでしょうか。

他国の友達と交流を深め、他国を知ることで、自国はどういった特徴を持ち、世界の中でどういった状況に置かれているのか知ることができます。そうすることで、何をすれば世界中の人々がより幸せになれるのかを考える機会が生まれ、学習に対して高い意識をもってできるのではないかと考えます。だからこそ、私は自らがグローバルな人材となり、教員になった時にたくさんの生徒たちを指導しながら、日本という国をグローバルな国に変えたいと思っています。今回のプログラムではアメリカに行きましたが、世界には他にもさまざまな国があり、さまざまな教育が存在しているはずです。ヨーロッパではどのように教育がなされているか、まだ教育が発展していないアフリカの国々での教育の実態も知りたい、伝えたいと考えるようになりました。今回のプログラムに参加して、自分自身が大きく変化できる機会をいただけたと強く感じるとともにより世界に目を向け、学習しなければならないという使命感にも駆られています。この度は本当に良い経験をさせていただきました。ありがとうございました。